

第3回 幌延町まち・ひと・しごと創生会議
幌延町地域振興（観光）計画アクションプラン検討会 議事概要

日時：平成31年3月28日（木） 18時10分～19時30分
場所：幌延深地層研究センター国際交流施設 2階会議室
参加者：別紙参照

<議事概要>

1. 開会

～一関委員長から開会あいさつ

2. 平成30年度実施事業の概要・進捗状況について

(1) 剣淵町及び名寄市の道の駅視察について【資料1】

～事務局より「資料1. 道の駅絵本の里・けんぶち／道の駅もち米の里☆なよろ視察ツアー【実施報告】」
について説明

○視察参加委員の報告

【委員】

・ 剣淵の道の駅は冬場の売り上げが厳しいという状況であった。名寄の道の駅は、ソフト大福が人気で、売り上げがある。しかし、レストランについては、スタッフが不足し、定休日を作った。そのため、昼食の売り上げ増加が見込めないようだ。どちらも冬の運営には苦勞しており、冬期間の対策、さらに「売れる商品」の開発が重要だと思った。また、他地域の道の駅と連携し、お互いの特産品を相互販売も有効だと思った。

【委員】

・ 道の駅には売りとなる地域特産品等が無いとダメだと思っていたが、今回視察した道の駅では、広域連携でお互いの商品を持ち寄り、販売することを計画している。そのような方法であれば、幌延としても道の駅で販売する商品不足に対応できると思った。幌延としても近い将来、幌延らしい商品を開発し、道の駅で販売できるようになれば良い。また、道の駅連携の中で、イベント等での連携ができれば、誘客も含め何とかなるのではないかと思った。

【委員】

・ 第2回の会議を欠席したため、後日送付された会議録でみなさんのご意見を把握した上で、今回の視察に参加した。道の駅と言えば、地域の特産品というイメージがあったが、今回の視察で考えを改めなければならないと思った。剣淵の道の駅には、これといった特産品が見当たらない状況であったが、黒字経営となっている。特産品が無くても、運営が出来るのではないかと感じた。剣淵の入場者数を見て分かるように、幌延と比べて、車両の通行量が多いと思う。幌延が同じようにできるかは分からない。剣淵は市街地と離れているが、経営に影響はないようだ。名寄も剣淵も、どちらにも観光は弱く、その辺は今後の課題とのことであった。幌延としても、観光の充実を図っているところであるが、観光云々ではなく、道の駅は黒字経営できることを知った。

【委員長】

・ 道の駅連携では、中川、美深、名寄、剣淵が連携を予定しているようだ。何かをやらなければ、課題は解決できない。例えば、幌延でも夏は地元産の野菜を販売するなど、出来るだけ幌延の商品を活用し、

冬期間の農産品が少ない時期は、他と連携し、相互に魅力を発信することが出来ればよい。幌延は名寄や剣淵よりも交通量が少ないため、同じにはならないと思うが。道の駅を設置する意義だが、災害時の防災拠点という役割も考えるべきだと思う。今後も色々な意見を頂き、検討を進めて行く必要があると思う。

【委員】

- ・ 名寄の道の駅はバスの利用が多い時で 1,000 台あり、今は 500 台とあるが、バスで訪れた方の道の駅利用状況について、説明はあったか？
⇒特にバスの利用について説明を受けていないが、名寄の道の駅利用者の大多数は、ソフト大福等の餅商品を購入するお客さんとのことであった。(事務局)
- ・ 国道 40 号を北上するバスツアーは、最北を目指す団体旅行だと思う。天塩・中川等の近隣の道の駅のレストラン利用について、どの程度バスの利用があるか調査した方が良い。また。観光関係の会社に、団体でのレストラン利用のニーズについて調査したらどうか。

【委員長】

- ・ 名寄の道の駅の入込客数は、レジ打ち数でトイレだけの利用者は人数に入っていない。

【委員】

- ・ 名寄の道の駅では本州の姉妹都市の商品をイベントに販売しているようだ。幌延に姉妹都市は無いが、本州との連携も考えられる。

【委員長】

- ・ 幌延の特産と言えば、「トナカイ」と「鴨」と言われるが生産・供給体制が整っていない。お客さんに提供できるか検討する体制づくりが必要かと思う。

【委員】

- ・ 中川や天塩の道の駅の売り上げについても調査して欲しい。

【委員】

- ・ 剣淵の道の駅は赤字かと思っていた。高速道路インターから離れており、立地が良いとは言えないが、黒字で経営されている。考え方を考える必要があるように感じた。

【委員長】

- ・ 高速道路の利用より、一般道の利用の方があるのではないか。

【委員】

- ・ 剣淵の支配人から幌延は立地的には厳しいと言われた。国道 40 号を北上し、稚内まで後 1 時間程度で到着するタイミングで、道の駅で休憩するか分からないとのことであった。

【オブザーバー】

- ・ 名寄も剣淵も道の駅を利用する目的が明確なため、黒字となっているのではないか。名寄はソフト大福、剣淵はパンを目的にお客さんが訪れる。道の駅でしか買えないものが必要だと思う。中川や天塩の道の駅はレストランが良いが、特産品が無い。

【委員長】

- ・ 剣淵は絵本で有名になったが、今は取組みが縮小しているようだ。剣淵は冬にも関わらず野菜が揃っており、様々な種類の米・野菜などが販売されていた。お菓子類より、地元の野菜が好まれるのかと思う。

【委員】

- ・ 剣淵の道の駅のパンは、冷凍生地を使っており、そこで全て作っているわけではなかった。そういう意味でも、特産品でなくても目玉商品が出来るのではないかと思った。道の駅の施設だけを先に作って、そこから売るもの考えることは怖いと思うが。

【委員】

- ・ 建物の減価償却は大きな負担となる。剣淵の道の駅は、温泉施設も運営しており、そちらは赤字とのことであったが、上手くやりくりしているのではないか。名寄の道の駅はスタッフの確保に苦勞しており、剣淵の道の駅では、士別の方など近隣の方が働いている状況であった。パンについては、焼きたてを常に提供しており、人気があるのではないか。

【委員】

- ・ 地方には、焼きたてのパンを提供する環境がないため、思ったより売れると思う。冷凍生地でも焼きたてのパンが提供できれば、それで良いと思う。他の道の駅や施設と連携しながらできれば良いのではないか。

(2) 平成 30 年度の取組み整理について **【資料 2】**

～事務局より「資料 2. 幌延町地域振興（観光）計画アクションプラン平成 30 年度 実施報告」について説明

○質疑応答

【委員】

- ・ 熊肉をレアな状態で提供しているが、大丈夫か？
⇒外側に火がしっかりと入っていれば、問題ない。今回の食材で、アカエゾマツの葉を塚田シェフに送った。飾りで使うのかと思っていたが、アカエゾマツからオイルを抽出し、料理に使っていたことに驚いた。また、塩漬けヤマメも、塩漬けしたと思えないような、生のような状態であった。さすが料理人だと思った。**【委員】**
- ・ 稚内の北門神社祭の時、露店で販売している炭火焼きの川魚が美味しい。幌延もこれだけの食材があるなら、今後使えるようになれば良い。

(3) 北大天塩研究林のミズナラを使った幌延産樽ワイン試験製造事業について **【資料 3】**

～事務局より「資料 3. ワイン樽による『北緯 45 度のまち幌延町』創生事業」について説明

3. 幌延町地域振興（観光）計画推進に向けた平成 31 年度の取組みについて **【資料 4】**

～事務局より「資料 4. 幌延町地域振興（観光）計画 アクションプラン 達成状況整理」について説明

○質疑応答

【委員】

- ・ 以前の検討会時に、町長からトナカイの生産強化について、町として考えているとの発言があった。具体的な進捗状況を知りたい。

【委員】

- ・ トナカイについては、近親交配等の課題もあり増産が難しいようだ。例えば、幌延町とフィンランドでトナカイが有名な町と姉妹都市となり、交流を図り、トナカイを輸入することは出来ないか。トナカイ個体が難しければ、トナカイ肉を輸入し、流通量を増やすことも考えられる。

【事務局】

- ・ 生産者の方には、増産に向けた相談はしている。生産者の方も釧路動物園と交渉し、近親交配の血を薄めるように努力している。町としても釧路動物園との連携を進めたいと思っている。また、飼育環境の改善についても検討している。子が生まれた際に、栄養が足りない状況が見受けられるため、飼育 D 型ハウスの中を改修し、生後の母子が生活できる環境を作ろうと考えている。

【委員】

- ・ スノーカイトの大会は、次年度も開催の予定があるか？

⇒来年も大会の開催を予定しているようだ。【事務局】

4. 幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略について【資料5】

～事務局より「資料5. 幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略ロードマップ【H31.4改定】」について説明

【委員】

- ・ バイオマスについては、町民に対してはどのような影響があるか知りたい。

⇒バイオマス自体は、家畜糞尿を活用し、エネルギーを生み出すとともに、酪農環境を良くすることにより、搾乳量を増やすこと期待できる。一般的なバイオガспラントは、大規模な施設が主流となっており、幌延のように100頭前後の酪農形態には適合しない。そんな中、幌延町では町の酪農規模に合った小型プラントモデルの構築を検討している。売電量は多くないため自家用消費が主となるが、副産物として液肥ができるため、液肥を活用した牧草の生育や野菜の生産等、循環型の酪農が可能となる。バイオガспラントを早急に作る段階にはまだなく、構想づくりを進めた。例えば、バイオガспラントができた場合、家畜糞尿の臭気が外に漏れなくなる。また、酪農のエネルギーが効率的に循環し、循環型の酪農が実現する。興部町では、酪農家が集まり電気を売る団体を作っている。町としても、売電等も含め、町に新しい仕事を作るなど、トータルで幌延町に経済的なメリットをもたらすことを考えている。(事務局)

【委員】

- ・ 幌延産の樽で熟成する日本酒も造っていると聞いているが、どのような状況か知りたい。

⇒小樽の田中酒造で5月中旬頃に商品となる予定。ワインに比べて、日本酒は樽の香りが付きやすいため、数週間の貯蔵で十分のようだ。今は適正な貯蔵日数等の研究をしている。【事務局】

- ・ 利尻の湧き水を使った日本酒を利尻では作っている。幌延としてもそのような展開は考えているか。

⇒利尻の湧き水を使った日本酒はニセコ酒造で作っている。利尻から湧き水をポリタンクに入れて、ニセコまで運搬している。幌延としても湧き水があるのでチャレンジできるかもしれない。もし、良い商品が出来そうであれば、前回会議で紹介したはまなす財団の支援事業等を活用し、民間でチャレンジしてみてもどうか。【事務局】

【委員】

- ・ もしチャレンジするとなれば、樽は町が提供してくれるか？

⇒樽の個数に限りがあるが検討は可能。日本酒の樽は、次は焼酎を入れる予定があり、次年度も田中酒造さんで使用する予定はあるが、来年度追加で樽を製造する予定がある。

【委員】

- ・ 幌延の湧き水は、日本酒に合う湧き水なのか？

⇒日本酒に合うかは分からないが、特徴として下沼で軟水と中高硬水の水が出ている。

【委員】

- ・ 日本の水はほぼ軟水のため、ほとんどの日本酒は軟水で作られている。以前、硬水で作られた日本酒は美味しいと聞いたことがある。

【委員】

- ・ 硬水のミネラルウォーターを飲んだことがあるが、とても飲みにくかった。水自体は日本人に、合わないように感じた。

【委員】

- ・ 利尻は有名であり、日本酒も売れるかもしれないが、幌延は知らない人が多い。幌延の名前で売れるかは分からない。

【委員】

- ・ 利尻はペットボトルのミネラルウォーターも作っており、値段は高い。

5. その他

～特になし

6. 閉会

【オブザーバー：議長】

- ・ 一年間、会議に参加いただき、議論を重ねて、見えてきたものもある。今後はそれを形にしていくことを期待したい。来年度の予算では、特産品や観光を作り上げていく。基幹産業の酪農においては来年度から農振地域計画を2年かけて策定する。幌延町として、中身のある1、2年になる。議会としても、真剣に議論に入り、内部で議論を重ねてよりよいものを目指していきたい。

【副町長】

- ・ 今年度最後の検討会となり本来であれば、町長から挨拶をするところであるが、別件があり、代わりにお礼させて頂く。地域振興（観光）計画やアクションを策定頂き、今年度はアクションプランの推進に関して、ご意見を頂いた。感謝を申し上げます。次年度はさらに計画を推進していくことになる。拠点の構想については、町民と議論を深めていきたい。総合戦略についても目標達成にむけて、次年度も取り組みを推進する。人口減少の危機感を町民とも共有し、総合計画の検討なども進めて行きたい。